

横浜市小学校社会科研究会 3 学年部会 研修会記録	令和2年 10月 7日 横浜市小学校教育研究会 会長 相澤 昭宏 横浜市小学校社会科研究会 会長 梅田 比奈子 3学年部長 岡村 新一郎
	第2号

【提案日時】 9月 9日 (水)	提案 栗田 一輝先生 (横浜市立山下みどり台小学校)
【会 場】 横浜市立平沼小学校	提案 小田島 学先生 (横浜市立別所小学校)
	司会 岡村 新一郎先生 (横浜市立瀬ヶ崎小学校)
	記録 杉内 翔太先生 (横浜市立大豆戸小学校)

提案内容 栗田先生 単元名「わたしたちのまちを火事から守るのはだれ？」

- ・大会主題に向けて、願いや思いのある「人の営み」を大切にしてきた。
- ・「選択・判断」に重きを置いた単元づくりをしてきた。

火事が起きたら、だれがどうやって火を消すのだろう。

視点①子どもの予想と見通しを大切にした単元づくり

- ・子どもの「！（気付きなど）」や「？（疑問など）」の問い → 単元を見通す学習問題
- ・資料「木造家屋の模型」 → 位置や空間の広がり
- ・資料「火事で火が燃えうつる時間」 → 切実感 → 火事で家が燃えたらどうしよう！
- ・子どもの予想を順序立てて整理し、学習計画を立てていく。

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり

- ・二つの矛盾（木造家屋が全焼する時間は20分⇔消防団が現場に到着するまでの時間も20分）
 本気の学習問題が生まれる！
消防団は意味があるのだろうか。（きっと消防士とは違う大切な役目があるはずだ）
- ・公助や共助の高まりから、自助の意識を高めていく。

成果（○）と課題（△）

- 子ども自身が見通しをもっていたので、社会的事象を自分ごとにとらえていた。（視点①）
 例）どうして消防車は赤い？ → 出前授業で解決！（法やきまりを扱う）
- △3年生ということもあり、調べ方への支援をもう少し丁寧に行えるとよかった。（視点①）
- 二つの矛盾から思考が深まり、追求意欲を高めることができた。（視点②）
- △教師の出るタイミングや思考をつなげる発問ができるとよかった。（視点②）

質疑・応答

- Q 本時が二項対立（意味がある・ない）のようだが、最終的にどうなったのか？
- A 意味がないと考えていた児童が一人。まとめて「消防士と協力している」となった。
- Q 単元を見通す学習問題の「だれが」という風に抜けていった流れは、どのようにできた？
- A 調べ学習の際に出てきたり、もともと考えていたことを引き出したりして、できていった。

グループ討議（①単元を見通す学習問題の成立過程 ②関係機関の協力・連携に迫る手立て）

- ①…導入で火事の怖さを実感し、資料で時間軸を与え、身近にしていくことができていた。
- ②…本時における協力の具体を出しておくべきだったのではないか。
 二項対立で終わらず、それでもなんであるのか（消防団の意義）を追求できるとよかった。

提案内容 小田島先生 単元名「横浜市のうつりかわり～横浜のまちからみる昔と今～」

視点①子どもの予想と見通しを大切にしたい単元づくり

- ・今と昔をくらべるための資料「2枚の鳥瞰図」 → 単元を見通す学習問題

昔から今まで、横浜市はどのようにかわってきたのだろう。

- ・子どもたちの学区を題材とした → 調査が可能 → 横浜市全体が捉えやすいものへ
- ・移り変わりを「4つの着目点ごとの年表」にまとめた → 既習内容を活用しようとする姿

視点②本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり

- ・学区にある「踏切」や「商店街」での調査 → 今はなくなった「踏切」への思い



平沼のまちからふみきりがなくなることで、どのようなことがよくなったのだろうか。(本気)

⇒経験や体験に基づいた話 1分で28mは渡れない(経験) → 踏切の問題点

- ・終末は、人口が減っていくとされる横浜市のこれからのあり方について考え、希望をもった。

成果(○)と課題(△)

○2枚の鳥瞰図を見た子どもの気づきを基にした学習計画を立てることができた。(視点①)

△誘導的発問で「着目する視点」につなぐべきだった場面があった。(視点①)

△年表の4つの着目点が教師からの提示だったので、子どもにとって無理があった。(視点①)

○「踏切」に着目することで「交通」の視点から本気になっていく姿が見られた。(視点②)

○体験や調査の充実により、全員が同じ土台で考えることができた。(視点②)

△体験したことをノートにメモしている児童が多く、本時での発言が限られていた。(視点②)

グループ討議(①予想と見通しを大切にしたい単元づくり ②社会的な事象の意味に迫る手立て)

Q 「踏切」はよい題材だと思うが、子どもにとって身近だったのか。

A 身近ではない児童もはじめはいたが、考えていく中で思考の深まりは見られた。

<講師(先輩)の先生より>

○中和田小学校 大久保 房代先生

いろいろな都市の資料を見てきた。踏切はなじみがないものだが、それを「なじみ」にしていく素晴らしい提案だった。横浜の提案内容はいいものが揃っている。存分に伝える機会なので伝えてほしい。

○笠間小学校 黒田 由希子先生

2つの提案ともに練ってきたものだと感じる事ができた。消防団のWさん『一番は「備え」であり、意味のあること』⇒ここへどう迫るか。3年生では、歴史をどう捉えていくのか難しい。踏切の切り口は面白かった。生活スタイルの変化など、踏切以外もあるので商店街全体に戻ることも大切。

○本宿小学校 倉岡 政美先生

難しい中で貴重な提案だった。短い時間で何を伝えるのか、どんな手立てが有効的だったか、仮説を立てて考えていくことの大切さを改めて感じた。人々の営み⇒思いや願い⇒それを解決していくまでの過程⇒新たな問題の循環。二項対立は洗い出しとしては有効だが、深めていくことが必要。そこから本気へつながる。抽象的だった「踏切」が体験や調査を通して、具体的にしていく過程が魅力的だった。

文責 杉内 翔太 (大豆戸 小学校)

発 関口 暁之 (永谷 小学校)